

強く生きよ、との亡くなった  
方々からのメッセージを  
心に刻んで…



行政では出来ない  
部分の人への支えを、  
自分達で掘り起こす

14

写真

氏名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

3

生るさまを語って  
いただくことの大切さ



ボランティア同士の横の  
連携の見える活動と  
形態の追求

10

大震災では、市民という  
ものが頼りになるものだ。  
との再発見



自分の能力が人に喜ばれる  
こと、自分が認めて貰える  
喜びの発見を大切に

7

作成

1.17学んだ四年実行委員会(078-795-6499東京)

東条 健司(週末ボランティア)

内田 喜恵(ファミリー神戸)

殿本 弘

震災当時、誰もが我を忘れ、他を気づかった  
子供も大人も、若者も老人も、皆が一つになった  
支え合い、助け合い、励まし合い、分かち合い  
寒い冬の空に、温かい輪が広がった  
燃やし続けよう、ボランティアスピリット!

ファミリー神戸 内田喜恵

私たちは、大震災の尊い人命の犠牲のなかで  
助け合いを通じて多くを学んだ  
行動以外に新しい社会を構築できないことも  
この経験をも自分たちの街作りを生かす  
協力と連携、共生と分かち合いがこれからの  
市民活動のキーワードである

殿本 弘

## ボランティア 手帳

(1.17学んだ四年)



氏名 \_\_\_\_\_

「お話し相手」と

「ホームヘルパー」と

「心のケア」を含まれた活動も…



不平等性は悩みでは  
あるが、中止の理由とは  
しないような活動の経験

形としてよりも心として  
のこるものを大切に



助け合いは、人より自分の  
ためになるという考え

26

新しいニーズへの  
挑戦という勇気



潜在的な人の力を  
発揮させる場の提供

4

ボランティアは  
可能性である



何でも良い…と、訓練が  
ある方がよい…との共存

13

多数意見でないもの、  
緊急なもの、試行的なものへ  
挑戦する勇気



人の役に立つのは結果に  
すぎない、能力発揮の  
場こそ大切

8

自発性故、管理による  
統制ではなく、非難や責め合いの  
ない共同の可能性



地域社会の多様性に  
対応することの体験

9



1995年1月17日、突然阪神地区を襲った兵庫  
県南部地震は、一瞬にして数千名の死者と数  
十万世帯の罹災者を生み出し、被災地は長期  
にわたる苦難の道を進み始めた。

震災ボランティアたちは、やみくもに被災地に  
むかったが、その4年にわたる救援・支援の多く  
の活動は、多大の学びと新たな発見をボランティ  
アたちにもたらした。

被災4年目の1月17日、ボランティアたちは被災  
地に集い「1.17学んだ4年、ボランティアから21世  
紀への提言」の追悼討論集会を開いた。この  
手帳は、その時に語られた心の中、ボランティ  
アスピリットを記取したものである。

2

### 提言

震災により見出されたケアの必要性を、かか  
わる側、受ける側も、喜びをもって行えるような  
制度・組織を、新しく発足したNPOへの発展も  
視野に入れて追求することを提言します。

1999年1月17日  
阪神・淡路大震災ボランティアによる追悼論  
集会「1.17学んだ4年、ボランティアから21世  
紀への提言」



15

生きる意欲を  
もらう・与える、  
関係になるうれしさ



コミュニティの再考と  
発見を目指して

6

ニーズはあるがシーズが  
欠けているところへ、採算性や  
不平等性を考慮せずに立ち入る



行政では出来ないこと、  
企業では出来ないことを  
やってきた心

11